

ふたつの輪

社会福祉法人
にりん草

発行
2019年5月15日
No. 3101
社会福祉法人
にりん草
東京都板橋区
大山金井町21-1
03-5926-8640
<http://nirinsou.jp/>

春!「オールにりん草」が誕生します

平成30年12月、にりん草は理事長交代という大きな節目を迎えました。
にりん草の現状と今後について、理事長 久保田直子より皆様にご挨拶申し上げます。



保護者の皆さん、関係者や職員の皆様と苦楽を共にすることになり、早くも5か月たちました。

昨年12月に、にりん草という想像もしていなかった社会福祉法人の利用者、保護者の皆さん、関係者や職員の皆様と苦楽を共にすることになり、早くも5か月たちました。

この間、利用者の皆さんは一生懸命に生活し、周りの方々、職員は実に様々な形でそれを支える姿に人間本来の価値の源がそこにあるような気がして、久しぶりに新鮮な驚きを感じました。

しかし一方で、法人としてのにりん草に対しては、それぞれの事業所毎では職員の皆さんが頑張っているもの、にりん草という組織としては多くの課題があるように感じました。

振り返ってみれば、親の会から前理事長である小西さんをはじめ、多くの保護者や関係者の皆さんが大変なご尽力の上、支援を必要とする方々の仕事を通して生きがいづくりを主軸に作業所や生活寮を作り、今日のにりん草の花を咲かせました。このことは板橋区にとっても大きな財産であるに違いありません。

その後、福祉制度も大きく変わり、区内にも多くの支援を必要とする方々のための授産施設等ができ、今では、支援学校の卒業生が施設を選べる時代になったとのこと、時代の変化に驚かされました。

私事ですが、私が福祉課長をしていた2007年前後は、なんといっても障害のある方々の支援の中で、不足し

ている卒後の行き場をつくること、卒後対策が最重要課題であったからです。

社会福祉法人として

この間、にりん草は社会福祉法人に転換しました。このことは、にりん草が今後永続的に活動できる大きな基盤となりました。しかし、一方、その基盤に合わせた法人としての仕組みを整え、利用者支援をはじめとする事業運営を区民に対して説明できるように一定のルールを理解し、整える事も求められるようになりました。

このことについて、にりん草は、各事業所の自主性を尊重するあまり今一つうまくゆかず、気づいたら社会福祉法人という枠組みや時代に少々取り残されてしまっていた。そして、そのことを昨年、ある事件が判明した結果明らかになり、次から次へと対応を迫られることになってしまい、あらゆる意味で法人の再構築が求められるようになりました。

また、職員も様々な方が増え、ボランティアマンの就業先として施設を選ぶ方々も多くなりました。その方々の中には、ボランティアというよりは、仕事のスキルの向上を図る観点から利用者さんと真剣に向き合う人もいます。どちらも素晴らしいと思います。より多くの人材を得ようとするなら、後者を重視する必要があるでしょう。

オールにりん草へ

そして、何よりも今、必要なのは、個別の事業所毎を超えて、社会福祉法人にりん草としての一体感、「オールにりん草」の見える事業運営だと思えます。これから施設を探す人々に、「にりん草の事業所なら楽しそう」、また求職する人びとに、「にりん草で仕事をしたい」と、言ってもらえるような法人をみんなで作りたいと思うのです。

広報体制の今後

本紙、「ふたつの輪」については施設の紹介やコミュニケーションツール等、いろいろな観点から職員の皆さんが努力して発行されてきたと思います。しかし、誰に対して、何を目的に、という点や、ホームページやパンフレット等との住み分けに関しては、少しあまいなように見受けられます。

「ふたつの輪」については、にりん草がオールにりん草に生まれ変わろうとするこの春をもって、一旦休止させていただきます。新たなPRやコミュニケーションツール、そして、何よりもオールにりん草を作る上で力になる方策を探っていきたいと思えます。

これから、社会福祉法人にりん草は新たに生まれ変わります。そのことが皆さんに伝わるような広報体制を作る



理事長を卒業するにあたって

小西 早苗



幾星霜ふたたび春はめぐりきてまさに卒業式の季節。振袖にはかま

姿の若い女性が街を彩っています。すでに風化している話ですが、「何故にりん草を？」を少し書きしるしたいと思います。

その昔、障害のある子どもたちには就学の保証もなく、もちろん幼児の療育も何もありませんでした。我が息子は三鷹で生まれ、五歳で神奈川の生田に、そして五年生の時に板橋の高島養護(現特別支援)学校に転入しました。三か所の異なった地域で暮らすことでそれぞれの福祉的環境を体験できたことは大きな力になっています。

当時板橋には障害児のための高等部はなく、王子養護学校まで満員電車に乗りついで行くしかなく、一人で通えない子は中学卒業後は在宅になっていました。15歳になったらずっと家にいるの？先の見通しもなく不安はつるばかりで親たちは集まると額を寄せ合っ

当時、王子養護学校は満員でパンク寸前という状態。何とか高等部を作らなければと、組合活動も盛んだったこともあり、組合の先生方と、私たち何と知らない親とがタッグを組んで巨大な東京都を相手に、高等部を板橋に作ってほしいという運動をスタートさせました。

無謀な戦いのようにも思えましたが切実な思いは伝わるもので、昭和から

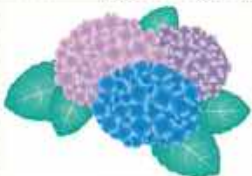
ことも含めて。「オールにりん草」は今、春を迎え、これから育ちます。どうか皆さん、今後ともよろしくお願いいたします。



平成まで足かけ7年の運動は終結し、めでたく開校した板橋養護(現特別支援)学校は今年30周年をむかえました。しかし学校生活は人生の中でのほんのひとこまです。彼らのこれからがほんの少しでも豊かに心安らげるものになるようにと、にりん草は「優しくあれ、暖かくあれ、そしてともにあれ、人間らしく」の理念をきっかけ、生きていくうえで必要なことを次々と具現化していきました。

しかし、利用者の想定外の高齢化など問題は山積しています。ますます運営がきびしいものになると思いますが、心一つに出来ればほとんどの事は可能になります。まわりの心ある人たちがたくさん巻き込んで歩みを進めていっていただきたいと思います。

理事長卒業にあたり一言。



おおよま福祉作業所

梅まつり

3月8日に、赤塚溜池公園で梅まつりが行われ、利用者10人程で出店しました。梅干し、梅みそ、梅シロップ、梅酢、ゆずみそなど梅にちなんだ自主生産品を出品。沢山のお客様にご来店いただき、売れ切れるものもたくさんありました。



試食コーナーを設け、多くの方に買っていただきました。うめ、みそは大変好評で、すぐに売り切れてしまいました。

みそも手作り製品です。利用者の皆で、つぶした大豆、塩、麴を混ぜて作っています。仕込んでから約6ヶ月寝かしたものが、ようやく製品となります。皆様に喜んでいただき、作り甲斐があるものです。

梅みそなどの加工みそは、季節に応じた物を作っています。今回、梅まつりにちなんで、作成しました。今後は夏に向けて、大葉みそなどを作りたいと考えています。

梅まつりは、日差しはよいのですが、風が強いなかでの出店でした。皆で元気づけ販売しました。また来年も、梅まつりに向けて自主製品を作成し、出店していきたいと考えています。

グループホームほのか

5周年行事

泣いたり、笑ったり、早5年

グループホームほのかも開設して丸5年が経ちました。そこで今回は、ご家族様と利用者さん職員との交流を深める懇親会を行いました。

当日は、町会長様・民生委員様も出席頂き、ご挨拶を頂戴致しました。



まず、利用者さん、ご家族様、職員の自己紹介を行いました。午前部の部が終了、続いて親睦を深める為の昼食会を行いました。日頃、あまり話す機会のない職員とご家族との交流が図られました。

午後の部は、ほのかでのイベント行事の振り返りとして、そば打ち体験・イチゴ狩り&パーベキュー・毎年恒例のクリスマス食事会の様子を写真でのスライドショーで思い出を懐かしみしました。ご家族様も初めて見る写真もあり、目を細めていました。

次に、ほのか職員による出し物として、『3枚のお札』というパネルシアターを披露しました。笑いが絶えない内容で会場は大盛り上がりでした。最後にご家族から感想を頂き、「この様な温かい雰囲気の中で、生活を送っているのだからと安心してました」といった声が聞かれました。10周年に向け、今後も優しくほんわりとした暮らしの場所として歩みを進めてゆきます。



まえの福祉作業所

バスハイク

今年のみえの福祉作業所バスハイク

はお隣、埼玉県に行きました。最初に立ち寄った場所は、大宮にある「鉄道博物館」。



館内は懐かしの0系新幹線をはじめとした、旧国鉄時代の車両がところ狭しと展示されており、中に入り、座席に座ることも出来ます。その他にも本物の街並みさながらのジオラマが展示されており、鉄道好きもそうでない人も、時間を忘れてしまうスケールでした。



鉄道博物館を見学した後は、川越市にある川越プリンスホテルに行き、ランチバイキングを楽しみました。川越プリンスホテルのランチバイキングでは、シェフがお客さんの目の前で切り分けてくれるローストビーフが目玉で、肉厚のローストビーフに舌鼓をうちました。

ランチを楽しむ最後に向かった場所は、ポッキーやブリッツでおなじみのグリコの工場に行きました。グリコの工場、「グリコピアリスト」では主にポッキーとブリッツを製造しており、お店に並ぶまでの工程を見学することが出来ました。最後には見学者全員「ブリッツのお土産をいた



は、お隣、埼玉県に行きました。最初に立ち寄った場所は、大宮にある「鉄道博物館」。

とくまる福祉作業所

バスハイク

だき、今回のバスハイクも大満足な1日で終わることが出来ました。

3月8日、8時30分に西台を出発したバスは首都高速中台入り口はるか手前で渋滞に巻き込まれてしまいました。「あれれ、どうして進まないの?」と口にするもののこの時はまだ余裕。バスハイクの始まりを誰もが楽しんでいました。

少し進んでは止まりを繰り返す、やっと首都高速に入りましたが、ここから所々でひどい渋滞。「こんなことはめったにないんだけど」とバスのドライバーさんも驚くほどの混雑。目的地の「房総のむら」には、予定を1時間以上も過ぎて到着です。



千葉県立房総のむらには、房総の伝統的な生活様式や技術を体験できる体験博物館。県内各地から出土した考古遺産や商家・

武家屋敷・農家などの実物展示を通して歴史を学べる場所です。ここでは2つの班に分かれて、「千代紙ろうそく」と「泥めんこ(絵付け)」のものがづくり体験をしました。体験の後は園内の散策。



熱田農園ではたくさんの猫がお出迎え。高設栽培なので腰をかかめず摘めるのがありがたいです。広いハウスの中を、赤く色づいたいちごを求めて歩く。昼食を食べたばかりですが、やっぱり腹がすね。少し寒かったのですが、晴天の中一日楽しむことができました。さて次のバスハイクはどこに行こうかな。

まえの福祉作業所

就労定着支援

就労定着支援は、障がい者の職場定着率が低い現状の中で、障がい者が長期間働くことができるよう、平成30年度に創設された障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービスの一つです。就労移行支援等の事業所から就労した利用者さんが受けることのできる支援です。



就労定着支援の支援期間終了後は、地域の就労支援事業所が中心となって支援しますが、連携して一緒に会社訪問、面談などを行います。ご本人が就労を継続し、自立することができるよう支援していきます。会社訪問で利用者さんの頑張っている姿を見ることが、支援者自身も励まされています。

まえの福祉作業所は就労定着支援の事業所として、就労して半年後から3年間支援します。現在、就労移行支援から就労した方のうち、8名が就労定着支援を利用しています。具体的には、会社訪問し作業の様子を見ることや、利用者さんと対面



就労定着支援の支援期間終了後は、地域の就労支援事業所が中心となって支援しますが、連携して一緒に会社訪問、面談などを行います。ご本人が就労を継続し、自立することができるよう支援していきます。会社訪問で利用者さんの頑張っている姿を見ることが、支援者自身も励まされています。

お知らせ

社会福祉法人にりん草の広報紙として皆様にお届けしてきました「ふたつの輪」ですが、今号をもちましていったん休刊とさせていただきます。読み手の皆さまに支えていただいたことと厚く御礼申し上げます。広報体制を組み直し、新たな形で再びお目にかかれることを願いつつ、しばらくのお別れをお伝えいたします。

